令和６年度 小さな拠点・地域運営組織形成支援事業

“持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ”による「小さな拠点」づくりの取組

福島県地域振興課
Tel：024-521-7114

持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ（共創カレッジ）とは

現　象
人口減少
少子高齢化

困りごと
地域の基礎的なコミュニティ
（集落、行政区、自治会など）
活力低下や担い手不足

県の取組
持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ
～ Collage of Sustainable Local Community ～
地域の様々な人びとや団体が関わりあい、
これまでのコミュニティの活動を補完する仕組みづくり

３つのアプローチ
①ヒント（情報発信）
②スキル（人材育成）
③ネットワーク（連携）

目指す姿
住民が将来にわたり心豊かに
暮らし続けられる地域をつくる

共創カレッジの取組経過
～キックオフセミナーと３つのプログラム～

各プログラムの開催報告は福島県HPに掲載していますので、是非ご覧ください。（左の二次元コードからアクセス可）

キックオフセミナー

総務省「地域運営組織に関する研究会」委員等を務める高崎経済大学 櫻井常矢 教授を招き、地域運営組織形成の意義やプロセス、市町村の関わり方などについて基調講演を行った。
（参加者数：約６０名）

“小さな拠点”や“地域運営組織(RMO)”など

● 小さな拠点

小学校区など、複数の集落が散在する地域（集落生活圏）において、商店、診療所などの日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場所を集約・確保し、周辺集落とコミュニティバスなどの交通ネットワークで結ぶことで、人々が集い、交流する機会が広がっていく、集落地域の再生を目指す取組。
（出典：内閣府・内閣官房総合サイト「地方創生」）

● 地域運営組織（RMO:Region Management Organization）

地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織。
（出典：内閣府・内閣官房総合サイト「地方創生」）

〈「小さな拠点」づくりの取組イメージ〉

カフェ・サロンの運営

買物代行・宅配・見守りサービス

日用品等の販売

有害鳥獣対策

ガソリンスタンドの運営

移動手段の確保（公共交通）

■ Program 1 ：ヒント（情報発信）

地域コミュニティが抱える様々な課題に対して、解決策となり得る取組を事例を交えて紹介

地域コミュニティを考える出前講座

行政区長等の地域住民を対象に県内のコミュニティ組織が先行して実践している取組を紹介し、持続可能な地域コミュニティを考える出前講座を３市町村で開催。
（延べ参加者数：約７０名）

■ Program 2 ：スキル（人材育成）

持続可能な地域コミュニティづくりに必要な住民等との「話し合い」を円滑に行うための手法を実践形式で習得

地域コミュニティ共創スキルアップ研修会

自治体職員や集落支援員、地域おこし協力隊員などを対象に、ファシリテーションやグラフィックレコーディングのスキルを学ぶ研修会を開催。
（全４回連続講座、延べ参加者数：４９名）

■ Program 3 ：ネットワーク（連携）

県内で同じ思いを持つ仲間と交流し、課題や悩みを共有することで、互いの活動をシンカさせるきっかけづくり

地域コミュニティ連携フォーラム

持続可能なコミュニティづくりの取組に関心のある地域づくり関係者などを対象に、それぞれの取組の共有や情報交換を行う交流会を開催。
（参加者数：約５０名）

令和６年度 小さな拠点・地域運営組織形成支援事業

持続可能な地域コミュニティ共創カレッジの反響・成果

福島県地域振興課
Tel:024-521-7114

小さな拠点・地域運営組織(RMO)形成に向けた地域の動き

Case 1：サポート事業の活用へ

■ **参加者の属性**：集落支援員
■ **参加イベント**：研修会
■ **地域の動き**：
・研修会に参加した集落支援員が、研修会のフォローアップを活用し、旧公民館エリアを活動範囲とする**地区の有志団体に働きかけて**小さな拠点･RMOに関する**座談会を開催**。
・自治体も関わりながら、**Ｒ７年度から県サポート事業を活用**して、地域のビジョンづくりに取り組むこととした。

Case 2：集落点検に向けて、自ら学びを深める

■ **参加者の属性**：中間支援組織・集落支援員
■ **参加イベント**：研修会・フォーラム
■ **地域の動き**：
・フォーラムで講演した**(特非)きらりよしじまネットワークへ独自に視察研修**を実施するなど、RMO形成に向け学びを深めている。
・また、研修会に参加した集落支援員を中心に、**Ｒ７年度からRMO形成を見据えた集落点検にも取り組む予定**。

Case 3：市町村が主体となり話合いの場を継続

■ **参加者の属性**：市町村職員
■ **参加イベント**：出前講座・研修会
■ **地域の動き**：
・出前講座の開催を機に地域における機運が高まり、**コミュニティ支援の必要性が議論されるように**なった。
・そこで、次の一手として、**Ｒ７年度当初予算に経費を計上**し、**地域住民との勉強会を継続**させることとした。

各イベントの参加者の感想から

Voice 1：きっかけ
ノウハウやスキルを習得するきっかけに

（出前講座）
活動が義務化されず、自発性のある「自由」（やめることも含む）があれば…持続可能なのかなと思いました。考える機会になりました。

今年の4月から現在の立場になり、ゼロからのスタートで勉強している。今回のような研修の機会を作ってくださったことは、私にとってこの上ない好運でした。
（研修会 集落支援員）

（研修会 集落支援員）
ファシリテーションの定義が分かりやすく、“腹落ち”しました。今後、ワークショップの開催予定があるので勉強になります。

Voice 2：気づき・刺激
他団体の活動などに対する気づき･刺激に

（キックオフセミナー 自治体職員）
「何となく」しかなかったイメージが具体化できた。

西会津の成功事例は大きな刺激になり、小さな積み上げの連続だと感じた。“集落がなくなる”恐怖ではなく、小さな“楽しい”を提示した方が良いのかなぁと感じた。
（出前講座）

（フォーラム RMO職員）
人の集まりの少なさを地域の協力性のなさと捉えていましたが、それを事務局等の関わりの弱さと反省。また、発表の団体の方の頑張りが大きな刺激になりました。

Voice 3：話合い
住民同士の話合いの重要性を改めて認識

（キックオフセミナー 自治体職員）
真に大切な部分は地域課題の把握や住民等の話合い。自分の業務を見つめ直す上でも参考になった。

「話合いの文化を築く」に共感。話合いに来てくれた人に感謝すること。「話し合っているか！」にドキッとした。
（フォーラム 集落支援員）

その他（若者の参加）
出前講座では地元の高校に通う高校生も参加。自身が暮らす地域の現状や課題を住民の方と考えるとともに、キャリア形成における学びの場にもなった。